

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は、平成26年度から「高大連携重点型」工科高校として再出発し、「工学系・大学進学専科」を1クラス設置した。さらに、令和2年度入学生からは、工科高校のさらなる魅力づくりを踏まえ、学習内容の充実を図るとともに、1クラス35人編成による一層きめ細かな指導を行っている。

本校がこれまで培ってきた伝統や教育活動を踏まえ、スローガン（標語）である「生徒が主役！一生徒の力を伸ばし、確かな進路を実現」を掲げ、ものづくり人材の育成を図るため、育成する生徒像を以下に示す。

- 1 ものづくりに興味・関心をもち、基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、活用できる生徒。
- 2 自ら課題を見付け出し、思考力・判断力・表現力等を駆使し、チームワークで解決を図ることができる生徒。
- 3 工業人として高い倫理観と責任感をもち、生涯にわたって人間性の向上に努め、社会や人生に学びを生かそうとする生徒。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と授業改善

(1) 基礎的・基本的な学力の定着とともに、授業の質の向上のため学習意欲の喚起を促すPDCAサイクルを行い授業改善を図る。

ア 生徒の実態を把握し、ICTを効果的に取り入れて「主体的・対話的で深い学び」の実現を図り、「魅力ある授業」「わかる授業」を推進する。

イ 英語の4技能（「読む・聞く・話す・書く」）をバランス良く指導し、国際的な視野を有する技術者を育成する。

ウ 教員の授業力向上のため、教員・保護者の授業見学や研究授業を行い、授業改善の取組みを推進する。

エ 家庭学習の定着と、読書活動を推進できるように学校図書館機能の充実を図る。

※ 学校教育自己診断（生徒）の「授業の工夫等」を、令和7年度には65%以上にする（R2:55.9%、R3:53.7%、R4:61.0%）。

[H30～R4平均53.2%]

※ 外部学力調査における生徒（1年生）の3教科（国数英）平均合計210点以上を確認して指導にあたる（R2:211.5点、R3:215.9点、R4:205.0点）。

[H30～R4平均210.8点]

※ 学校教育自己診断（生徒）の「ICT機器を活用した授業」を、令和7年度には80%以上にする（R2:63.9%、R3:69.0%、R4:76.8%）。[H30～R4平均61.4%]

※ 学校教育自己診断（生徒）の「1人1台端末の効果的な活用」を令和7年度には65%以上にする（R4:59.3%）。

※ 学校教育自己診断（生徒）の「家庭学習者の増加」を、令和7年度には22%以上にする（R2:19.7%、R3:19.1%、R4:18.6%）。[H30～R4平均20.4%]

※ 学校教育自己診断（生徒）の「図書館機能の充実」を、令和7年度には65%以上にする（R2:65.5%、R3:60.5%、R4:60.9%）。[H30～R4平均61.1%]

(2) 「ものづくり教育」を通じて、意欲をもって学習に取り組む生徒を育成する。

ア 生徒が望ましい勤労観・職業観を身に付けるため、企業や大学等と連携を行い、キャリア・パスポートの活用も含めてキャリア教育・職業教育の充実を図る。

イ 生徒が様々な資格に挑戦できるよう日々の学習活動や放課後に指導を行い、頑張る生徒を支援する。

※ インターンシップ参加者を、令和7年度には35名以上にする（R2:コロナ禍で実施せず、R3:コロナ禍で実施せず、R4:32名）。[H30～R4平均33名]

※ 学校教育自己診断（生徒）の「実習授業満足度」を、令和7年度には90%以上にする（R2:77.4%、R3:75.5%、R4:87.9%）。[H30～R4平均76.8%]

※ 資格取得を推奨し、全国工業高等学校長協会（全工協会）で資格取得に応じて点数化されて、その合計点により顕彰されるジュニアマイスター制度を奨励し、特別[T]・ゴールド[G]・シルバー[S]・ブロンズ[B:H30から制度化]の取得者を、令和7年度には5年間の平均以上にする（R2:T2・G2・S4・B6、R3:T0・G1・S9・B0、R4:T0・G0・S7・B0）。[H30～R4平均T-1.0・G-2.0・S-6.2・B-2.4]

2 夢と志をもつ生徒の育成

(1) 豊かでたくましい人間性の育成。

ア あらゆる教育活動における人権教育と、生徒の発達段階に応じた学年別人権教育の充実を図る。

イ いじめ対応や支援教育の充実のために教育相談体制の機動性を高め、学習支援活動の充実を図る。

ウ 生徒にマナーの向上とルールを厳守させ、遅刻件数や問題行動の防止・転退学率の減少に努める。

エ 部活動加入を推奨し、「部活動に係る活動方針」に則った活動と、環境整備や安全対策の強化を図る。

※ 学校教育自己診断（生徒）の「人権教育等の充実度」を、令和7年度には65%以上にする（R2:52.5%、R3:42.5%、R4:61.0%）。[H30～R4平均51.7%]

※ 学校教育自己診断（生徒）の「いじめ相談対応」を、令和7年度には55%以上にする（R2:48.7%、R3:46.6%、R4:52.0%）。[R1～R4平均49.3%]

※ 学校教育自己診断（生徒）の「制服や頭髪等のルール・マナー厳守」を、令和7年度には80%以上にする（R2:71.9%、R3:67.0%、R4:78.1%）。[H30～R4平均69.5%]

※ 学校教育自己診断（生徒）の「授業スマホ等のマナー」を、令和7年度には75%以上にする（R2:70.5%、R3:61.9%、R4:72.7%）。[H30～R4平均63.8%]

※ 遅刻件数を、令和7年度には2200件以下にする（R2:2,139件、R3:2739件、R4:2833件）。[H30～R4平均2844件]

※ 問題行動指導を、令和7年度には件数を一桁にする（R2:9件・9名、R3:13件17名、R4:12件18名）。[H30～R4平均12件・18名]

※ 転退学率を、令和7年度には2.0%以下にする（R2:1.46% [転学0.73%、退学0.73%]、R3:1.79% [転学1.24%、退学0.55%]、R4:2.8% [転学2.1%、退学0.8%]）。[H30～R4平均2.04% [転学1.2%、退学0.85%]]

※ 部活動加入率を、令和7年度には70%以上にする（R2:68.7%、R3:67.4%、R4:67.0%）。[H30～R4平均66.0%]

(2) 生徒の自己実現に向けた支援を図る。

ア 進路実現に向けた分掌・学年・教科の連携を深め、生徒の自己実現に向けた指導の充実を図る。

イ 就職・進学希望者等の多様な進路希望の実現を図るため、きめ細かな進路指導を行う。

ウ 卒業3年後の離職率調査を実施し、就職指導に生かす。

エ 大学進学者への学習状況調査を実施し、進学指導に生かす。

※ 学校教育自己診断（生徒）の「進路に関する行事の充実」を、令和7年度には82%以上にする（R2:72.0%、R3:72.5%、R4:79.0%）。[H30～R4平均71.2%]

※ 就職一次合格率を、毎年工科平均以上にする（R2:74.5% [工科平均82.1%]、R3:84.0% [工科平均85.4%]、R4:86.2% [工科平均91.2%]）。[H30～R4平均83.3% [工科平均86.2%]]

※ 就職希望者内定率を、令和7年度も100%を維持する（R2:100% [190名]、R3:100% [159名]、R4:100% [146名]）。[H30～R4平均100%]

※ 大学進学希望者実現度を、令和7年度には100%にする（R2:95.7% [45/47名]、R3:98.1% [53名]、R4:98.0% [47名]）。[H30～R4平均95.6%]

※ 3年後の離職率を、令和7年度[令和4年度入社]には27.5%（5年間の平均）以下にする（R2 [H29入社]25.8%、R3 [H30入社]28.4%、R4 [H31入社]30.2%）。[H30～R4平均27.5%]

3 信頼される魅力ある学校づくり

(1) 広報活動の充実を図り、志願者の安定的確保を図る。

ア 中学校訪問や出前授業、学校説明会の精査・充実を図る。

イ 地域の幼・中学校等との連携を深め、工科高校の理解と学校活性化を促進する。

ウ 中学卒業生が減少する中、入学者選抜の志願者倍率を総合募集・工学系ともに1倍以上確保する。

※ 幼・中学校との連携を、令和7年度には3回以上にする（R2:2回、R3:1回、R4:1回）。[H30～R4平均3.6回]

※ 志願倍率を、毎年総合募集・工学系ともに1倍以上確保する（R2 [総合] 0.91倍 [工学] 1.71倍、R3 [総合] 0.89倍 [工学] 0.94倍、R4 [総合] 1.10倍 [工学] 0.91倍）。[H30～R4平均 [総合] 1.0倍 [工学] 1.2倍]

(2) 工業高校生対象の大会等へ参加し、全国大会出場と上位結果をめざす。

ア 旋盤・電気工事・電子回路組立などものづくり大会へ参加や、課題研究作品をコンテストに応募するなど、全国大会出場や入賞をめざす。

イ マイコンカーラリー・ロボット相撲大会・パソコン甲子園等に参加し、全国大会出場や入賞をめざす。

※ 高校生ものづくり大会旋盤部門を、毎年近畿大会優勝・全国大会出場をめざす（R2 コロナ禍で中止、R3 近畿大会優勝・全国大会出場、マイコンカーラリー全国大会出場、R4 ものづくり大会近畿出場・マイコンカーラリー全国大会出場・ロボット相撲全国大会出場）。

※ 全工協会の高校生技術・アイデアコンテスト全国大会に課題研究作品を応募し、上位入賞をめざす（R2:1作品「佳作」、R3:1作品「理事長特別賞」、R4:1作品「佳作」）

(3) 工科高校のさらなる魅力づくりを推進するため、学校組織の改善を図る。

ア 五役会（校長・教頭・首席・指導教諭・事務長）で学校課題を分析・検討し、解決に向けて迅速な対応を図る。

イ 令和6年度の再編整備完成に向けて、校内PTを組織して先行する工科高校6校を参考に、計画の策定・運用方法の検討を進める。

府立淀川工科高等学校

4 校務の効率化と職場環境づくりの推進

(1) 校務の効率化

ア ICTを活用して、校務の効率化を図る。

※ 校務の効率化を、毎年1件以上図り、業務軽減につなげる（R2:2件[緊急連絡メール・SSC教職員共有ファイルの設定・運用]、R3:1件[欠席フォームの設定・運用]、R4:2件[学校教育自己診断をフォーム作成ツールで実施・保護者向け案内のデジタル化。]）。

(2) 職場環境づくりの推進

ア 「より働きやすい職場環境づくり」を推進するため、ストレスチェック結果を踏まえて労働安全衛生委員会で議論を行い、改善策は図っていく。

イ 学校保健委員会、労働安全衛生委員会を活性化するとともに、「大阪府部活動の在り方に関する方針」・「府立学校における働き方改革に係る取組みについて」などを踏まえ、生徒・教職員の健康管理体制を充実させる。

※ ストレスチェック結果における「量的負担・仕事の負担リスク・総合リスク」を、毎年基準値（8.7・100・100）より低く抑える（R2:8.1・94・97、R3:8.8・104・104、R4:8.7・98・91）。[H30～R4平均8.5・97・96.6]

※ 学校教育自己診断（教員）の「職場での相談・人間関係」の肯定率を、令和7年度には68%以上にする（R2:56.6%、R3:66%、R4:61.3%）。[H30～R4平均57.8%]

※ 在校等時間管理に努め、時間外勤務者のうち月80時間以上を令和7年度には10名以下にする（R2:10名、R3:13名、R4:19名）。[H30～R4平均16名]

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月 実施予定]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成と授業改善	<p>(1)学力の定着と、授業改善 ア 「魅力ある授業」「わかる授業」の推進</p> <p>イ 英語の4技能指導による技術者の育成</p> <p>ウ 教員・保護者の授業見学や研究授業等による授業</p> <p>エ 家庭学習と学校図書館機能の充実</p> <p>(2)ものづくり教育による生徒育成 ア キャリア教育・職業教育の充実 イ 資格取得への支援</p>	<p>(1) ア・「主体的・対話的で深い学び」の実現を図り、「魅力ある授業」「わかる授業」を推進する。特に1年生は、外部学力調査による学力検査と結果の経年変化を確認し、その後の教科指導に生かす。</p> <p>・教育実践にICTを効果的に取り入れ、学びの深化を図る。</p> <p>・PBLを取り入れ、能動的な学習態度を養う。</p> <p>イ・英語学力調査を実施し、昨年度との4技能結果を比較し、成果と課題を分析し、英語教育の指導に生かす。</p> <p>ウ・教科ごとの公開研究授業を実施。教員・保護者の授業見学、授業改善の取組みを進める。</p> <p>エ・家庭学習の定着とともに、学校図書館機能の充実(本の更新及び活用度)を図る。</p> <p>(2) ア・企業や大学等の連携を行い、授業・HR等においてキャリア・パスポートを活用したキャリア教育やデジタル化対応産業教育装置を活用し、職業教育の充実を図る。 イ・様々な資格取得を組織的に進め、生徒の付加価値を高める。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断「授業の工夫等」63%以上 [61.0%] <参考> 生徒の経年値学力の変化検証 入学時の教育産業の基礎力調査(国数英)の平均計210点以上[合計205.0点:国69.6点、数67.5点、英67.8点] ・学校教育自己診断「ICT機器を活用した授業」78%以上 [76.8%] ・学校教育自己診断「学校は、1人1台端末を効果的に活用している」63%以上[59.3%] ・学校教育自己診断「自分の考えをまとめ、発表する」51%以上 [48.5%]</p> <p>イ・前年度と今年度の英語学力調査の4技能向上比較 2年4技能外部模試 4技能トータル「A1.2」 スピーキング「A1.1」 3年工学系でGTEC 4技能トータルは共に「A1.3」、スピーキングは共に「A2.1」 ・英検受検者数の増加 [2名合格/7名受験]</p> <p>ウ・授業見学1人2回以上 [2.4回]</p> <p>エ・学校教育自己診断「家庭学習者の増加」20%以上 [18.6%] ・学校教育自己診断「図書館機能の充実」63%以上 [60.9%]</p> <p>(2) ア・インターンシップ参加者数: 35名以上 [32名] ・学校教育自己診断「実習授業満足度」89%以上 [87.9%] イ・ジュニアマイスター: 過去5年平均 [T1.0, G2.0, S6.2, B2.4] 以上 [T0, G0, S7, B0]</p>	
2 夢と志をもつ生徒手の育成	<p>(1)豊かでたくましい人間性の育成 ア 人権教育の充実 イ 教育相談体制の充実 ウ マナー向上とルール厳守、遅刻件数や問題行動の防止・転退学率の減少</p>	<p>(1) ア・人権講演会や人権HRを実施し、合理的配慮を踏まえた「ともに学び、ともに生きる」教育を推進し、共生社会を学ぶ。 イ・支援教育コーディネーターを中心に関係教員の連携を強化し、いじめ対応も含めた教員による相談対応の充実を図る。 ウ・学校生活におけるルールやマナーの徹底を教室掲示等をもって図る。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断「人権教育等の充実度」63%以上 [61.0%] イ・学校教育自己診断「いじめ相談対応」53%以上 [52.0%] ウ・学校教育自己診断「制服や頭髪等のルール・マナーを守る」79%以上 [78.1%] ・学校教育自己診断「授業のマナー(スマホ等)」74%以上 [72.7%]</p>	

	<p>エ 部活動の振興</p> <p>(2) 生徒の自己実現の支援 ア 進路実現に向けた指導の充実</p> <p>イ 進路希望の実現</p> <p>ウ 離職率調査の実施</p> <p>エ 大学進学者に対する学習状況調査の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・より丁寧な生徒指導により、遅刻件数の減少を図る。 ・集会時や日々の学校生活において啓発を行い、問題行動の防止に努める。 ・きめ細かな生徒指導、学習指導により転退学率の減少を図る。 <p>エ・部活動加入を促進し、「部活動に係る活動方針」に則った効率的な活動を図り、活気ある高校生活を送れるよう、環境整備や安全対策の強化を図る。</p> <p>(2) ア・生徒の自己実現に向けた取組みを支援するため、進路に関する指導の充実を図る。 ・就職一次合格率の向上を図る。</p> <p>イ・就職希望者の進路実現に向け、きめ細かな就職指導を行う。 ・大学等進学希望者の進路実現に向け、きめ細かな進学指導を行う。</p> <p>ウ・卒業3年後の離職率調査を継続し、就職指導に生かす。 エ・大学進学者への学習状況調査を継続実施し、進学指導に生かす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻件数：2600件以下 [2833件] ・問題行動指導：件数一桁 [12件] ・転退学率：2.5%以下 [2.8%] <p>エ・部活動加入率：68%以上 [67.0%]</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断「進路に関する行事の充実」80%以上 [79.0%] ・就職一次合格率：工科平均以上 [86.2%、工科平均91.2%] イ・就職希望者内定率：100% [就職100%] ・大学進学希望者実現度：100% [進学98%]</p> <p>ウ・離職率：26.0%以下 [30.2%、回収率93.1%] エ・大学進学者への調査、課題の分析と対応 [回収率56.8%(63/111)] ・課題⇒数Ⅲ・物理・英語普通科に比べて、数学・物理は圧倒的に理解力に差がある。 ・優位性⇒資格取得、実技・専門科目の知識、レポート作成能力、CAD製図、情報関連知識 ・外部学力検査により推移を確認する。 [英・数・国]</p>	
<p>3 信頼される魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 広報活動と志願者確保 ア 広報活動の精査・充実</p> <p>イ 地域との連携と学校活性化</p> <p>ウ 志願者倍率の確保</p> <p>(2) 工業高校生対象の大会等への参加と結果 ア ものづくり大会等への参加と結果</p> <p>イ マイコン利用した大会への参加と結果</p>	<p>(1) ア・中学校訪問や出前授業、学校説明会の精査・充実を図る。</p> <p>イ・地域の幼・中学校との連携を深め、工科高校の理解と学校活性化を促進する。</p> <p>ウ・様々な機会を捉えて学校PRを行い、入学者選抜の志願者を確保する。</p> <p>(2) ア・学習成果の場として、ものづくり大会やコンテスト等へ参加し、上位入賞をめざす。</p> <p>イ・マイコンを利用したマイコンカーレース・ロボット相撲・パソコン甲子園等へ参加し、上位入賞をめざす。</p>	<p>(1) ア・出前授業 [3校]、学校説明会 [18件]、随時学校見学会 [18件]の精査・充実</p> <p>イ・幼・中学校との連携：3回以上 [幼1回]</p> <p>ウ・志願者倍率：総合・工学とも1.0倍以上 [[全体]・1.07倍 [総合]・1.10倍、[工学]・0.91倍]</p> <p>(2) ア・ものづくり大会やコンテスト等の成果 [旋盤部門⇒近畿大会出場、溶接部門⇒大阪大会第2・3位。高校生技術・アイディアコンテスト全国大会⇒佳作]</p> <p>イ・マイコンカー、ロボット相撲・パソコン甲子園等の成果 [マイコンカーラリー⇒全国大会出場、ロボット相撲⇒全国大会出場、パソコン甲子園：モバイル部門⇒本選出場]</p>	

	<p>(3)さらなる魅力づくりと学校組織の改善 ア 学校課題の対応と迅速な実行</p> <p>イ 学校改編に向けた取り組み</p>	<p>(3) ア・五役会(校長・教頭・首席・指導教諭・事務長)で学校課題を分析・検討し、解決に向けて迅速な対応を図る。</p> <p>イ・工科高校のさらなる魅力づくり・学習内容の充実を推進するため、PTを組織して今後の検討に入る。</p>	<p>(3) ア・五役会での課題解決への対応回数と内容を示す [20回・運営委員会の回数半減・時間外の電話対応を留守番電話への切り替え・学校説明会の在り方検討・行事の開催時期の検討・生徒の母校訪問検討・出席簿のICT化検討。]</p> <p>イ・学校改革への取り組み:再編整備に関連する会議の実施 校内PTの各回数と実績を示す[6回]</p>	
4 校務の効率化と職場環境づくりの推進	<p>(1)校務の効率化 ア ICTを活用した校務の効率化</p> <p>(2)職場環境づくりの推進 ア 「より働きやすい職場環境づくり」の推進</p> <p>イ 生徒・教職員の健康管理体制の充実</p>	<p>(1) ア・ICTを活用した校務の効率化を図る。</p> <p>(2) ア・「より働きやすい職場環境づくり」の推進を図る。</p> <p>イ・部活動や働き改革を踏まえ、時間外勤務時間の縮減を図る。</p>	<p>(1) ア・効率化:1件以上 [2件:フォーム作成ツールで自己診断、保護者向け案内のデジタル化。]</p> <p>(2) ア・ストレスチェックの「量的負担・仕事の負担リスク・総合リスク」:基準値 [8.7・100・100]以下 [8.7・98・91] ・学校教育自己診断「職場での相談・人間関係」 65%以上 [61.3%]</p> <p>イ・時間外勤務月80時間以上の縮減:12名以下 [19名]</p>	